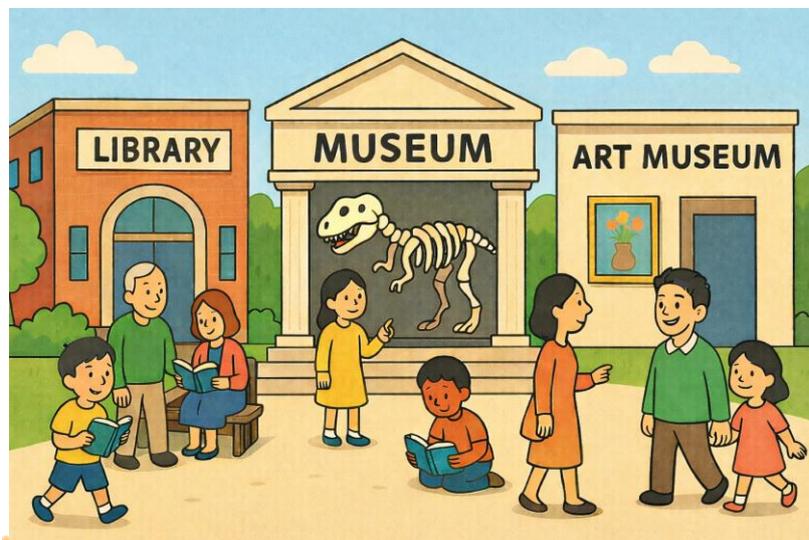


社会教育資源 (図書館・博物館・美術館) の地域活用のススメ



中央図書館



博物館



美術館

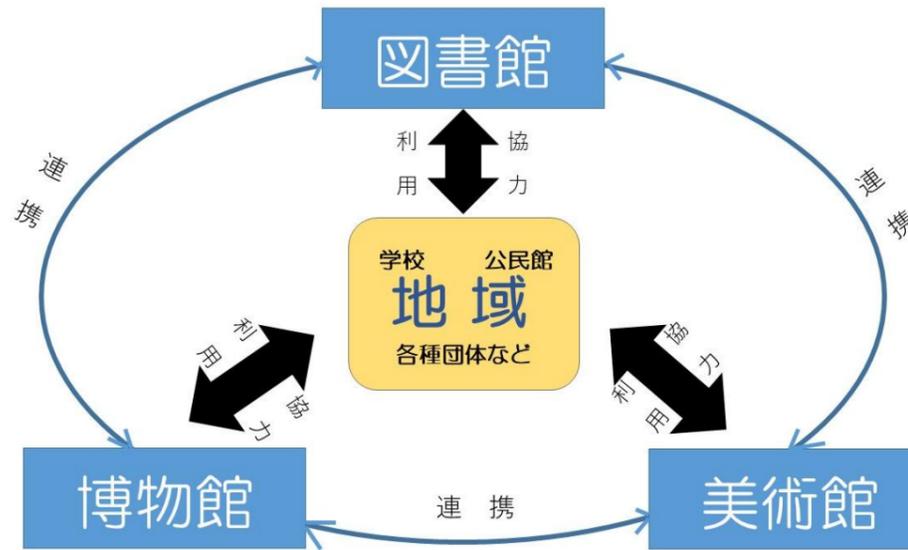
今期のテーマについて

平塚市には、図書館、博物館、美術館といった文化施設がそろっています。ここには、今までさまざまな形で蓄積された情報・資料があり、これらを扱う司書や学芸員をはじめとする専門スタッフもいます。これらの施設、情報・資料、人材をひとまとめにして資源と捉えました。

平塚市の社会教育資源は豊かです。この資源を地域で活用しない手はありません。今期の社会教育委員会議では、その活用について考えてみました。地域で何か事業を行うときの参考にしていただけたらと思います。

社会教育資源（図書館・博物館・美術館）の地域活用をイメージ化したものが右図です。ここで示した「地域」には、小学校・中学校・公民館などの公的機関、地域教育力ネットワーク協議会をはじめとする各種団体などが含まれます。地域ではさまざまな事業やイベントを行っており、単独で行う事業だけでなく、連携して行う事業もあります。

地域を取り囲むように社会教育施設を配置しました。地域が各館を利用するのは、施設へ出向くだけでなく、職員等の専門スタッフを派遣してもらうことなどもあります。一方で、調査研究などで地域が各館の事業に協力することもあります。このことにより、情報や資料などの地域資源がさらに蓄積されていくことになります。各館事業の地域展開は、市の施策である「地域における豊かな学び合いの機会の充実」などにもつながります。



3館の連携事例

「あんどんをぬろう in 美術館&メルティアート」

「湘南ひらつか七夕まつり」に飾るあんどんの絵を図書ボランティアの方々と子どもたちが制作しました。子ども読書活動の推進団体が企画したもので、会場は美術館。講師の絵画指導だけでなく、図書館職員のブックトークもありました。さらにあんどんの題材は、博物館刊行物などを参考にしました。

団体が企画した事業に、各館がいろいろな形で関わっています。このように、団体と各館がそれぞれに連携することで魅力的な事業を展開することが出来るかもしれません。



平塚市図書館の基本理念は、「誰もがいきいきと学べ、自慢できる『お役立ち図書館』」です。

図書館といえば、図書の貸出・返却やレファレンス（問い合わせ対応）などの業務が中心ですが、そのほかに、お話し会や講座をはじめとする各種イベントにも取り組んでいます。さらには、電子図書館など新たなサービスも展開しています。

地域での活用事例

- 学校や地域で活動されている読み語り（読み聞かせ）や図書整備ボランティアのみなさん向けの講習会を行う講師派遣を行っています。（読み読みの基本、本の補修、本を紹介するPOP作りのポイント、図書館の見学ツアーなど）
- 地域の団体に対しては、出前図書館や団体貸出サービスを行っています。また、公民館を拠点としてボランティアグループが、本の貸出などを行っている文庫活動もあります。



金目公民館で活動している
ひまわり文庫



POP作り講座



平塚市博物館は、「相模川流域の自然と文化」をテーマとする地域博物館です。自然・人文の各分野で市民と学芸員が協働するワーキンググループの活動は、調査研究・収集保管・展示普及などの博物館活動の全般にわたり、外部団体との連携も盛んです。これらの活動は市民の学びの場になるだけでなく、その成果は博物館の資源となり、市民にも還元されています。

地域での活用事例

- 来館者や園児・児童・生徒・学生・教員等の団体に対して、「展示解説ボランティアの会」による展示解説を実施しています。
- 公民館、小・中学校等からの依頼により星空観察会などの講師を派遣しています。
- 地域団体と連携した特別展を開催することもあります。
〔平成25年度 「水と生きる里 金目の風土とその魅力」〕
〔令和6年度 「近代ひらつかの女性たち」〕



市民団体の金目エコミュージアムが協力したワークショップ



公民館での星空観察会



平塚市美術館は、「湘南の美術・光」をテーマに、地域の歴史や風土に根ざした個性的で特色のある芸術文化を形成するため、湘南にゆかりのある作品、国内外の優れた近現代美術の収集、調査・研究と展示・教育活動を行っています。また、芸術文化活動の発表の場としての市民アートギャラリーの貸出などを行っています。

地域での活用事例

- 「ひらびあ一つま〜れ」というボランティアチームが中心となり、市内小学校と連携して「対話による美術鑑賞事業」を開催しています。
- 市民アートギャラリー、アトリエ、ミュージアムホールの施設を貸出しています。
- 中高生を対象としたワークショップボランティアの育成を実施しています。



小学校での「対話による美術鑑賞事業」。作品を見る人が感じたことを言葉にし、他の人の意見も聞きながら考えを深めます。



まとめ(今後の展望)

平塚市の図書館・博物館・美術館は、特別展やワークショップなどの自主事業、学校や団体向けのプログラムのほか、学校や公民館事業に講師を派遣するなど、資料や人材といった社会教育資源を提供することで、市民の生涯学習や文化芸術の振興に寄与してきました。

ただ、各施設が提供する多様な学びの機会が、市民全体に十分に浸透しているとはいえません。その活用はまだまだ広がる可能性を持っています。

今までは「市民が施設に出向いて学ぶ」ことが中心でしたが、これからは「地域とともに学びを育む」ことに力を入れていけると良いのではないのでしょうか。

地域が主体となって、中面で紹介した事例のように社会教育資源が活用されれば、学びが館の外へと広がり、より多くの市民が社会教育資源に触れる機会を得ることになるでしょう。

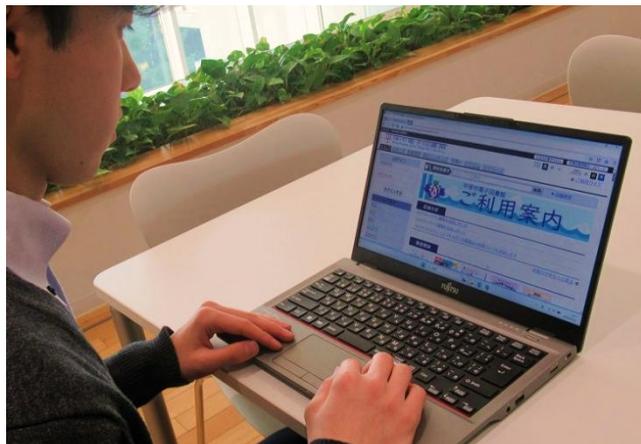
さらには、各館の専門スタッフが地域の現場に出向くことで、単に学習機会を提供するだけでなく、地域の課題解決や人と人とのつながりを深めることにもなります。各館では中面で紹介した事例以外でも、地域からの要望があれば、事前の打ち合わせなどを行って、柔軟に対応しています。各館と地域とが協働して、市民の関心や地域の特色を踏まえた事業を展開することで、学びと交流を基軸とした地域づくりが進んでいくのではないのでしょうか。

これからの大きな課題は、持続可能な施設運営とあっていいでしょう。具体的には、コストの削減とマンパワーの充実です。これらへの対応と社会教育資源の地域展開を考えたときに重要なポイントとなるのは、他機関との連携を含むアウトソーシングと資料のデジタル化だといえます。前者は、地域の人材の発掘・活用につながりますし、後者は、社会教育資源へのアプローチを容易にしてくれます。

私たちが住む地域では、子どもの健全育成、地域の安心・安全、高齢者福祉などさまざまな取り組みが行われています。それぞれの取り組みの中に、社会教育資源を活用することを検討してみてもいいかがでしょうか。深く彩りのある事業を展開することができるようになると思います。



博物館での展示解説ボランティア



図書館で実施している電子図書館